

平成29年4月28日、出雲市が文化庁に申請していた夕日にまつわるストーリー「日が沈む聖地出雲〜神が創り出した地の夕日を巡る〜」が、「日本遺産」に認定されました。

日本遺産とは

「日本遺産」は、平成27年に創設された文化庁の取り組みで、日本各地で受け継がれてきた、歴史的魅力や特色を語る「ストーリー」を日本遺産として認定するものです。

世界遺産や国宝などの指定文化財のように、文化財個々の価値づけ・保全を目的とするものではなく、地域に点在する有形・無形の文化財を、ストーリーのもとで、指定・未指定を問わず「面」として一体的にPRします。

市では今回の認定を受け、魅力あふれるストーリーを広く情報発信し、より多くの観光客誘致や地域の活性化に向けてさまざまな事業を進めていきます。

祝 日本遺産認定！

日が沈む聖地出雲

～神が創り出した地の夕日を巡る～

認定ストーリー

島根半島西端の海岸線は、出雲神話の舞台となった「稲佐の浜」と「日御碕」の名で親しまれ、そこから見る夕日は絶景です。しかし、この海岸線に、夕日にちなんだお社である「天日隅宮」（出雲大社）と「日沉宮」（日御碕神社）が祀られていることはあまり知られていません。

古来、大和の北西にある出雲は、日が沈む聖地として認識されていました。とりわけ、出雲の人々は夕日を神聖視して、畏敬の念を抱いていたと考えられます。

海に沈む美しい夕日は、日が沈む聖地出雲の祈りの歴史を語り継いでいます。